

【演題名】生活期における介護保険利用者の日常生活自立 度の変化

【目的】近年、地域包括ケアシステムの構築が重要視されている。地域包括ケアシステムでは、高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が、日常生活の場で一体的に提供できる地域での体制づくりを推進している。予防の一翼を担うのがリハビリテーション、特に生活期のリハビリテーションである一方で、生活期リハビリテーションの長期的な効果について検討した報告は少ない。今回、我々は生活期の患者を対象として、日常生活機能の経年変化の検討を行ったのでここに報告する。

【方法】生活期に介護保険を利用する 93 名（グループホームの入所者 25 名、介護老人保健施設の入所者 16 名、在宅において通所リハビリテーションを導入している利用者 22 名、在宅において訪問リハを導入している利用者 26 名、在宅において訪問リハと通所リハを併用している利用者（以下、訪問および通所リハ併用）4 名）を対象として、初回と 12 ヶ月後に、日常生活自立度として Functional Independence Measure（以下、FIM）の評価を行った。

【結果】経過中に施設利用中止や入院等により 29 名が対象から除外された。FIM 総得点はグループホーム群で 79.8 点から 74.5 点、老健群で 66.0 点から 64.7 点、通所リハ群で 92.9 点から 91.4 点、訪問リハ群 99.7 点から 101.3 点、訪問および通所リハ併用群で 95.7 点から 97.0 点へと変化した。

【結論】訪問リハ群、訪問および通所リハ併用群において FIM が維持されており、生活期におけるリハビリテーションにより日常生活機能が維持される可能性が示唆された。

【演題名】生活期における訪問リハビリテーション利用者の日常生活機能の変化

【目的】近年、地域包括ケアシステムの構築が重要視されている。地域包括ケアシステムでは、高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が、日常生活の場で一体的に提供できる地域での体制づくりを推進している。予防の一翼を担うのがリハビリテーション、特に訪問リハビリテーションである一方で、訪問リハビリテーションの長期的な効果について検討した報告は少ない。今回、我々は訪問リハビリテーションの利用者を対象として、日常生活機能の経年変化の検討を行ったのでここに報告する。

【方法】生活期に訪問リハビリテーションを利用する 26 名を対象として、初回、12 ヶ月後に、日常生活自立度として **Functional Independence Measure** (以下、**FIM**)、生活空間の広がりとして **Life-Space Assessment** (以下、**LSA**) の評価を行った。

【結果】経過中にサービス利用中止や入院等により 5 名が対象から除外された。**FIM** 総得点は 102.9 点から 104.5 点へ、**LSA** は 30.2 点から 38.9 点へと改善を認めた。

【結論】1 年間の経年変化において、訪問リハビリテーション利用者の **FIM** の維持と **LSA** の改善を認めた。生活期における訪問リハビリテーションにより日常生活機能が維持される可能性が示唆された。

【演題名】生活期におけるグループホーム入所者の認知機能および日常生活自立度の変化

【目的】近年、地域包括ケアシステムの構築が重要視されている。地域包括ケアシステムでは、高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい、医療、介護、予防、生活支援が、日常生活の場で一体的に提供できる地域での体制づくりを推進している。生活の場(入所施設)のひとつとしてグループホームがあるが、グループホームにおいては医師による診察や投薬が可能な一方で、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションといったリハビリテーション専門職による継続的な介入は困難なことが実情である。今回、我々はグループホーム入所者を対象として、認知機能および日常生活機能の経年変化の検討を行ったのでここに報告する。

【方法】グループホームに入所している 25 名を対象として、初回および 12 ヶ月後に、認知機能として Mini-Mental State Examination (以下、MMSE)、日常生活自立度として Functional Independence Measure (以下、FIM) の評価を行った。

【結果】経過中に施設死亡や入院等により 6 名が対象から除外された。MMSE は 13.6 点から 12.1 点、FIM 総得点は 79.8 点から 74.5 点へと変化した。

【結論】1 年間の経年変化において、グループホーム入所者の MMSE および FIM が低下する傾向を認めた。生活の場としてグループホームに入所する介護保険利用者においても、リハビリテーションの介入の必要性が示唆された。